令和２年度第２回高知県教科用図書選定審議会

開催日時：令和２年６月４日（木）　　９：３０～１７：００
開催場所：高知会館　白鳳の間
出 席 者：
（委員：名簿順）
森有希会長、八木千晶副会長、国見佳延委員、仙頭奈津実委員、竹村早苗委員、
松田真一委員、片岡浩和委員、兼松尚子委員、藤田剛志委員、時久惠子委員、
山中昌範委員、竹内信人委員、竹本雅浩委員、久寿久美子委員、徳弘純一委員、
百田佐多生委員、大黒由美委員、鍵山絹江委員、竹中利文委員
※欠席委員：弘瀬健一郎委員
（事務局）
小中学校課：武田課長、益永課長補佐、井上チーフ、濱田指導主事、小松指導主事、
片山指導主事、安岡指導主事、高橋指導主事、江渕指導主事、
飯田指導主事、清水指導主事、中上指導主事、中屋指導主事
教育センター：別役チーフ、岡本チーフ、小笠原指導主事、伊藤指導主事
保健体育課：池田指導主事
特別支援教育課：平石課長、濱口チーフ、谷澤指導主事、吉井指導主事、
平地指導主事

１．開会

会議冒頭に事務局より会議を非公開とする提案があり、承認された。
（非公開とする理由…審議会等の会議の公開に関する指針、３公開基準（２））

２．高知県教科用図書選定審議会　会長挨拶

３．選定資料案の報告、質疑、審議

事務局より、５つのグループに分かれて選定資料案についての報告があり、その後、質疑、審議を行った。

（１）総括・国語・書写

●総括

・調査期間は、５月１２日～１５日。調査員は５３名。
・調査対象は、６９種、１４５点。
・第１回高知県教科用図書選定審議会でいただいた御意見を踏まえて、調査を実施。

①個票

「（１）編集の方針、（２）内容」で構成。（１）編集の方針は、発行者が教科用図書を編集する際の編集の方針や編集の観点に見られる特徴や留意点を示している。（２）内容は、第１回の審議会で承認いただいた調査項目の観点に対応して、それぞれの教科書における特徴のある点を記載している。

②補助資料

「総括表」及び「具体的な調査項目」で構成。

種目ごとに、学習内容、教科の特徴、分量について、学習指導要領や解説の内容を踏まえながら項目を設定し、発行者ごと、学年ごとに補助資料（総括表）を作成。また、総括表内の網掛けをしている項目については、発行者ごとに詳細な内容を記載している（具体的な調査項目）。

●国語

・４者の調査内容について説明。

●書写

・４者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

（委員）

・本年度使用している教科書と今回調査した教科書を比較して、扱っている教材にどのような変更があったか。

（事務局）

・〔国語担当〕説明的な文章は、今日的な課題を取り上げた教材や、データ等を刷新した教材になっている。文学的な文章は、これまでに取り上げられた教材も掲載されている。

〔書写担当〕例として示している言葉が変更されている箇所もある。

（会長）

・書写で２次元バーコード等についての記述があったが、新しく取り入れられたことなのか。

（事務局）

・以前から動画の配信等はあったが、今回はすべての書写の教科書に共通的に提示されている。

（委員）

・三省堂（国語）は、情報の扱い方に関する事項のページ数が多い。その理由は。

（事務局）

・情報の取扱いについては、どの教科書も意識して設定されていた。特に、三省堂の教材数が多いと捉えている。三省堂については、教材の多くにおいて、情報の扱い方とセットにした示し方になっている。各教科書会社の示し方により、若干の差が出ていると理解している。

（２）地理・歴史・公民・地図

●地理

・４者の調査内容について説明。

●歴史

・７者の調査内容について説明。

●公民

・６者の調査内容について説明。

●地図

・２者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

（委員）

・補助資料の「国家の領域、国旗・国歌に関する内容」で、「北方領土・竹島の扱い」と「尖閣諸島」の項目を分けて調査している理由は。

（事務局）

・学習指導要領に示されている記載に基づき、項目を分けている。

（会長）

・新規参入した教科書について、何か特徴的なところはあったか。

（事務局）

・山川出版社の教科書については、大単元のスタートのページに、世界と日本におけるその時代の出来事の様子がわかる帯年表を入れているところに特徴が見られる。

（３）数学・理科・保健体育

●数学

・７者の調査内容について説明。

●理科

・５者の調査内容について説明。

●保健体育

・４者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

（委員）

・数学に関して。新学習指導要領になっての強調点を説明してほしい。また、ウェブやQRコードを用いた学習の効果はどのようなものか。

（事務局）

・新学習指導要領で示された数学的活動を通して資質・能力を育成するという観点により、どの教科書においても問題解決のプロセスを示している。また、数学が役立っている場面や他教科との関連等、数学の有用性について示されている。

・ウェブコンテンツについて。「情報手段の活用に関する項目」では、前回の採択の調査では項目数の平均値が「31」だった。今回の調査では「102.9」であり、情報手段の活用に関する項目内容が、約３倍以上増えたということになる。

（委員）

・理科の場合は、インターネット等の情報の信頼性に関して、どのように判断するのか。また、相反するような事実や結果が出てきたときに、どのように意思判断、決定していくのかということは、教科書に触れられているのか。

（事務局）

・〔理科担当〕常に科学的な視点をもつことは、理科において中心的に学んでいくことである。ウェブコンテンツに関してだけではなく、多くのデータを見極め、結果をどのように考察していくのかということを、教科学習において大切に扱っている。

〔数学担当〕データ活用領域の最初の章において、情報を取り出す際、信憑性があるデータかどうかの吟味や、意思決定する際に妥当性を検討することが明記されている。

（委員）

・理科の教科書に掲載されているQRコードを通して、どういうものが見られるのか。

（事務局）

・QRコードは、すべての教科書に掲載されている。目次に一括して掲載されている教科書、各ページに掲載されている教科書等、掲載の仕方は様々であった。

※発言後、教科書に掲載しているQRコードを読み取り、宇宙に関する説明をしているインターネットサイトを全員で閲覧。

（委員）

・保健体育の教科書では、食に対する内容がどのように掲載されているか。また、感染症予防については、どのような表現となっているか。

（事務局）

・生活習慣病や食生活と健康、運動とのかかわりなどの内容が掲載されている。感染症については、３年生において「健康な生活と病気の予防」等の内容において、感染症について取扱い、学ぶ内容が置かれている。

（４）音楽・美術・技術・家庭

●音楽

・２者の調査内容について説明。

●美術

・３者の調査内容について説明。

●技術・家庭（技術分野）

・３者の調査内容について説明。

●技術・家庭（家庭分野）

・３者の調査内容について説明。

●質疑及び審議

（委員）

・音楽に関して。「仰げば尊し」は、教出では、「③一般的な楽曲」に分類されており、教芸では、「①我が国や郷土の伝統音楽」に分類されている。これは、単元のねらいなどによって分類が分かれたのか。

（事務局）
・誤りである。「①我が国や郷土の伝統音楽」に分類される曲である。教出のページを修正する。

（委員）
・美術について。開隆堂の「編集の方針」の項目に、「中学校美術の系統的な学習」と記載されていることについて、補足説明を願いたい。
（事務局）
・小学校の図画工作との結びつきを重視した題材や、中学校の３年間の内容で見られた小中、そして高への縦のつながり、系統性という意味で記載した。

（委員）
・開隆堂以外の他の教科書にはないのか。（系統性を示す内容や項目等について）
（事務局）
・他の教科書会社にも系統性を表しているところが見られるのだが、開隆堂の教科書を調査した際、小中の系統性を特に感じたため、開隆堂の特徴として記載した。
（会長）
・より重視されている、という分析をしたという理解でよいか。
（事務局）
・そうである。

（委員）
・美術について。光村図書出版の調査の「エ　教科等横断的な学習の充実のための工夫」で、カリキュラム・マネジメントに配慮した構成の工夫があると記載されている。「教科等横断」は、新学習指導要領で大事にされているところであり、どの教科書も取り入れているのではないか。あえて、カリキュラム・マネジメントを特記する特徴があったのか。

また、教科横断的な視点において、カリキュラム・マネジメントは、各学校の教育目標を踏まえて考えていくものだと思うが、「エ」の調査項目の内容として記載する意義はあるのか。
（事務局）
・すべての教科書に、カリキュラム・マネジメントの視点による他教科とのつながりが明記されている。光村図書出版は、ページの中にスペースを設けて示しているほか、資料等も示されていたため、特徴として取り上げて記載した。

（会長）

・技術分野の総括表において、教育図書の総ページ欄に括弧でページ数が示されている。これは、ハンドブックが別冊のため、括弧で示されているのか。内数か。

（事務局）

・ハンドブックのページ数を示す。外数である。

（会長）

・その説明が表外に明記されるとよい。注釈があれば、表の整合性も取りやすい。

（事務局）

・追記する。

（５）英語・特別の教科 道徳・一般図書

●英語

・６者の調査内容について説明。

●特別の教科　道徳

・７者の調査内容について説明。

●一般図書・総括

・調査は、５月１２日に実施。調査員は５名。

・調査対象は、９冊。

・本県においては、従前から選定審議会において調査審議を積み重ねてきた一般図書が点字図書と併せて５５１冊。今回の９冊を加えると、全部で５６０冊となる。

●一般図書

・選定資料には、図書名、発行者、著書名等、図書の大きさ、ページ数、定価を記載している。

・９冊の調査内容ついて説明。

●質疑及び審議

（委員）

・英語に関して。ゴールの設定等、教科書で一定示されているか。

（事務局）

・聞くこと、話すこと、書くことにおける到達目標にあたる「CAN－DO リスト」

が、今回、どの教科書も示されている。技能統合しながら学習を進めていくこともできるので、設定されたことだけではなく、様々な活動を各学校で考えていただきたいと思う。

（委員）

・道徳の２者だけ、別冊のノートが付いている。本冊と別冊は連動しているようだが、総括表の「教科の特徴」の項目に、別冊の内容は調査数としてカウントされているのか。

（事務局）

・別冊に掲載されている内容を、「学習内容」や「教科の特徴」の中にカウントしていないが、ノートを併せて活用することによって相乗効果があると捉えている。

（委員）

・一般図書に関して。『かおノート』の本は、シールを貼ったら、また剥がして使えるのか。また、調査した本は、どのような教科で使うことができるのか。

（事務局）

・『かおノート』は、残念ながら繰り返し貼ることは難しい。
また、一般図書については、その本の内容に沿って、どのように活用できるのかということを、各学校が子どもの実態に応じて考えて選択することとなっている。

教科の活用については、例えば『こどもきせつのぎょうじ絵じてん第２版小型版』では、「こいのぼりをつくろう」という内容を図画工作で取り組む、「季節の行事や暮らし」などは生活科で学習する等、どの教科で学習するのが効果的かを考えながら活用することになる。

４．高知県教育委員会への答申

高知県教育委員会への答申について承認された後、会長より高知県教育委員会に答申を手交した。

５．高知県教育委員会　挨拶

６．閉会